

令和5年度 調布市立第二小学校 学校評価報告書（学校長 安藤 力也）

学校の教育目標	
「かがやけ二小の子」 ○かかんがえる子 ◎がんばる子（重点） ○やさしい子 ○けんこうな子	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<p>☆全教育活動におけるキーワード</p> <p>「自他尊重」: ⇒自分の「よさ」に気付き, 自分を大切にする⇒周りの人の「よさ」や違いを認め合い, 大切に思う</p> <p>◎「よさ」～find goodness～: 「自他尊重」</p> <p>◎「すべては子どもたちのWellbeingのために」～all for the wellbeing of children～</p> <p>◎「Team 二小」～one for all, all for one～</p> <p>☆目指す学校像「子ども一人一人を大切にできる学校」</p> <p>1: 個性が尊重され, 一人一人が大切にされる学校 2: 楽しく学び, 確かな学力が身に付く学校 3: 健康と安全を大切にできる学校</p> <p>4: 教職員が専門性を高め合い, 共に学び合う学校 5: 保護者・地域等と共に歩む学校</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>						
	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①学校経営方針の柱として「自他尊重の精神の涵養」を位置付け, 校長自ら全教育活動を通じて, 自分や他者を大切にすることに關連して, 教員, 地域・保護者, 児童に発信することで一層の涵養を目指す。	B	①各教科・領域等においては, 「何のために学ぶのか」という学習の意義を児童と共有しながら, 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。また, 校内研究と關連付け, 他者と関わり合いながら, 主体的・協働的に学ぶ児童の育成をめざして研鑽を深める。	B	①校内研究と關連付けて, 日々の体育授業や体育的活動の充実を図ると共に, 児童の運動の日常化を目指した取組の充実を図り, 体力向上を目指す。マラソン, 水泳, なわとび, 鉄棒等の体育学習で活用するカードの充実を図り, 休み時間や家庭でも日常的に運動に親しめるよう学校・学年だより等を通じて家庭に啓発する。	B
	②「二小スタンダード」・「二小の約束」に基づき全教職員が同じ視点で, 学習規律・生活規律のある指導にあたる。特に「あいさつ」の励行については生活指導上の重点目標として位置づける。	B	②思考場面を大切に, 自分の考えを明確にもたせて, ペアや小グループ及び全体での話し合い活動を段階的に取り入れ, 自分の考えを分かりやすく伝えたり, 友達の考えと比較したりする対話的な学習を推進する。	B	②校庭の芝生を有効活用した運動や体力テストの結果を踏まえた運動教具の開発や環境整備を推進したり, 休み時間の校庭や体育館使用方法を工夫したりすることで, 運動に親しむ機会の創出を図り, 体力の向上につなげる。	C
	③異学年交流「たてわり班活動」通年実施することで, 課題を見だし, 解決するために話し合い, 合意形成を図るなどして意思決定の能力の伸長を図るとともに集団の一員としての自覚をうながし, 自主的・実践的な態度の育成を図る。また, 行事ごとにそのめあてを明確化し達成感を味わうことで, 自己の生き方について考えを深めると共に自己実現を図ろうとする態度を養う。	A	③習熟度別指導や講師による指導を活用し, 学習の基盤となる資質・能力を明確にし, 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。また, 各学年や児童の学習状況や学習内容等に応じて教科担任制を一部導入し学習指導の充実を図る。	B	③児童の安全を最優先に考え, 学校行事を中心とした教育課程の見直しを図るとともに, 児童が安心して学校生活を送ることができるような保健・衛生面, 生活の仕方について検討し, 児童の指導に生かす。また, 保健指導を定期的に行い, 健康に対する理解を深め, 健康的な生活習慣を身に付けさせる。	B
	④人権尊重の精神を基盤とし, 児童, 教師, 保護者, 地域が一体となっていじめや体罰を許さない学校風土を醸成する。自分の「よさ」や他者の「よさ」, 互いの違いを認め合い, 自分も他の人も大切にできる児童の育成を図る人権教育を推進する。	B	④児童1人1台タブレット端末をはじめとするICT機器を効果的に活用した授業を積極的に行い, グローバルな人材育成を目指し, 児童の思考力・表現力, 情報活用能力を伸ばす授業の推進を図る。	B	④食に関する教育計画を基に食に関する指導の充実を図る。また, 給食配食前, 配食時には毎日, 管理職, 学級担任, 栄養士, 調理師による除去食等の複数点検を行い, 食物アレルギー事故ゼロを維持する。併せて喫食を伴う教育活動実施の際のチェックリストや保護者向け配布文書の活用を徹底することで校内におけるアレルギー事故防止に努める。	A
	⑤異学年交流「たてわり班活動」通年実施することで, 発達段階の違いなど, 多様な個性を認め寛容に関わり合う気持ちの育成や互いに思いやる心・学び合う心の育成を図る。	A	⑤全教員が学期ごとに指導案を作成配布・配布して相互授業公開をする。授業後には, 1 学期は基礎的な学力向上の基盤となる学級経営, 2 学期には学習指導要領の視点に立った授業改善に対する指導助言を行う。3 学期には全教員が一単位時間または単元の中で児童の主体的・協働的な学びの視点に立った授業づくりが行えるようにする。	B		
(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	
①学校評価アンケート「学習規律」「基本的な生活習慣の確立」「あいさつ励行」に関する項目では, 保護者・児童 A+B 回答: 90%以	B	①学校評価アンケートでは, 保護者 A+B 回答「学習理解」: 92%、「指導の工夫」88%であった。また, 全国学力調査では, 全	B	①学校評価アンケート「体力向上」項目では, 保護者 A+B 回答: 96%、児童 A+B 回答: 85%であった。本校では3年	B	

	<p>上である一方、「あいさつ励行」に関する児童 A+B 回答は昨年度と変わらず87%となった。児童会や PTA が中心となったあいさつ運動は年間3回実施できているが、地域・保護者や学校とが一体となって子どもたちのあいさつ励行に対する意識を高めることができるような新たな取組の創出について検討しながら、今後もあいさつの励行について重点的に取り組んでいく。</p>		<p>での教科における正答率は都平均値を上回った。調査結果を分析・活用するとともに、引き続き、主体的な学び手として子どもが中心となり学び合う授業づくりへの転換、ICT 機器の効果的な活用、協働的な学びの推進を図り、更なる授業改善に努めながら、子どもたちの「わかった」「できるようになった」を増やし、学ぶ楽しさを味わうことができる授業づくりをすすめていく。</p>		<p>間にわたり「自分も友達も大切に、主体的・協働的な学びを実現していく体育学習」を研究主題に研究を進め、児童が運動の特性に触れる楽しさや身体を動かす心地よさを味わう姿が見られ、研究成果が少しずつ表れてきている。一方で体力テスト調査結果ではほとんどの学年で男女ともに体力合計点が全国・東京都の平均値を下回っている現状がある。今後も本校の特色である校庭芝生を有効に活かしながら、調査結果を分析して体育授業や体育的活動の充実・改善を図り、児童が運動の楽しさを味わい、主体的に運動に取り組めるようにするとともに運動の日常化につなげていく。</p>	
	<p>②学校評価アンケート「豊かな心の育成」に関する項目では、保護者 A+B 回答が97%、児童 A+B 評価93%であった。本校では生きた知識や豊かな情操を育むために「本物との出会い」を大切に考えた体験的な活動や特色ある教育活動の一つとして思いやりの心を育てる取組として異学年交流「たてわり班活動」を大切にしてきた。各活動から児童の姿にその成果が表れていると感じている。また、ふれあい月間には「あいさつの励行」「いじめの防止」「安心安全な学校生活」等をテーマにした標語やポスター作りなどの児童の主体的な取組の充実につながっている。それぞれの取組を今後も大切に継続していく。</p>	A	<p>②学校評価アンケートでは児童 A+B 回答「学習理解」：93%（昨年度95%）、「話を聞く」：93%（昨年度93%）となった。一方で「考えを伝え合う」では児童 A+B 回答：80%（昨年度78%）となっている。子どもが中心となり、子どもたち同士が学び合う授業づくり（対話的な学び・協働的な学び）の実現に向けて、校内研究等と関連付けながら、引き続き、子どもたち同士が主体的に学び合い、楽しく、そして、よくわかる授業づくりを目指して研鑽を深めていく。</p>	B	<p>②給食配食前、配食時には毎日、管理職、学級担任、栄養士による除去食等の複数点検を行うとともに、喫食を伴う教育活動も含め、食物アレルギー事故ゼロを維持することができた。学校評価アンケート「健康教育」保護者 A+B 回答：99%であった。今後も保健指導や食育の充実を図りながら、子どもたちが安心・安全に生活できるよう健康づくり・健康教育に努力していく。</p>	A
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校という年齢の幅が広い場で他学年の児童と一緒に活動することは非常に意義深いものであり、二小に定着している素晴らしい活動だと感じている。今後もより一層充実させていただきたいと思う。 ・きまりを守り、あいさつもきちんとできているという子どもたちの回答から、今年度の取組目標である、全教職員が同じ視点で規律のある指導を行うことができたという結果が現れたと思う。保護者の方々も肯定的な回答多数のため、継続して取り組んでいっていただきたい。 ・「いじめ」については、いじめ側の児童の背景（親子関係などをはじめとする家庭環境や心理的なものなど）も大いに影響していると思われるので、学校風土を醸成すると同時に、そのようなケアも必要と考える。 ・目標に掲げた通りの成果が見られたことは大いに評価できることだと思う。挨拶については、大人が積極的に行うことも大切であると思うので、成果を維持するためにも教師をはじめとする大人がそのことを日々意識していただきたいと思う。 ・二小の子どもたちは自分からあいさつできる子が多く、素晴らしいと感じている。今後もあいさつが自然にできる環境づくりを進めてほしいと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観では、子供たちが小グループに分かれ自由に意見交換をしている姿が多く見られた。今後も「子供たちが自分の考えを安心してフラットに発信できる場」を多く設け子供たちが自己肯定感を高められるよう指導していただくと同時に、子供たちの心の声をしっかりと受け取っていただきたいと思う。 ・対話的な学習の実現には、とても時間を要するものであると思う。故に、疎かにならないように教師もじっくり取り組めるよう気持ちにゆとりをもって臨むことが大切であると思う。 ・ITC 機器に関連するか分からないが、子供たちのアンケートで読書の時間が減っていることが気になる。「時短」が一般化しつつある時勢、子供だけでなく大人もゆっくり本を読み深く考える習慣が減りつつあるように感じる。小学生の時点で、一人でも多くの子供に本の奥深さを感じてもらえるようご指導いただけたらと切に願う。 ・児童の回答は、控えめな回答にも見えるが、子どもたちが「すすんで」行動していると実感できるような指導や声かけが必要だと感じる。 ・（学力調査で）成果が得られたのであれば、その要因は何だったのかを振り返り、次回に生かせると思う。同時に、反省点についても全教職員で共有し、正答率の向上につなげられるとよいと思う。 ・学習発表会では、子供たちの明るくのびのびとした意欲的な想いが作品を通して感じられ、質の高い素晴らしい行事に仕上がっていたと感じた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上については、学校外の生活も大いに影響するので、家庭への啓発について工夫が必要であると思う。学校においては、体を使って遊ぶ時間をできるだけ確保できるとよいと思う。 ・体力レベルが、全国、東京都共に平均を下回っているということだが、中でもどのような項目が著しく低いのかを把握したうえで、具体的な対策が見いだせるとよいと思う。 ・現代は環境問題が深刻化し、人が自然の中でどう生きるべきかが非常に重要なテーマとなっている。特に「食」は身近で非常に大切な問題なので、食事が身体に大きな影響を与える大切なものであること、またその食材がどう作られているのかなど「食育」により力を注いでいただけたらと願う。 	
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>						
	4 安全・安心な学校づくりの推進		5 特別支援教育の推進		6 保護者・地域との連携	
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①毎週1回、生活保健夕会を開催し、共通理解を図るとともに、週ごとに適時性のある安全指導を行えるようにする。毎月の安全点検と合わせ安全指導を毎月実施する。	A	①就学支援シート、個別指導計画、個別支援計画の効果的な活用を図り、校内委員会を基軸として校内通級教室、都・市・SC、保護者、外部機関と連携を深め、一人ひとりのニーズに応じた支援を行う。	B	①地域人材や地域の教育材を生かした第二小ならではの教育活動を推進する。地域学校協働本部が中心となり、既存の取組を大切にしながら、地域住民、保護者の協力体制を再整備する。また、令和6年度より導入されるコミュニティスクールの仕組みについて丁寧に説明し、円滑なスタートにつなげる。	B
	②全職員が学校生活及び施設設備にお	B	②週2回行われる職員打ち合わせを活	A	②学校評議員、学校関係者評価委員に	B

	ける安全確保と危険回避に向けた改善意識を常に高くもち、役割分担を明確にしながら児童の安全を守る。休み時間等教員が児童と共に遊びに参加し、児童の安全確保に努める。		用し、全教職員が情報共有を行い、特別に支援が必要な児童に対する理解を深めるとともに、よりよい支援の在り方について全職員が共通認識をもち支援にあたるができるようにする。		よる意見や評価を積極的に取り入れ、学校運営の改善を図る。地域関連行事については、これまで同様、地域関係者の協力を得ながら、地域・保護者、そして子どもたちにとって思い出深い取組となるよう、学校が連携し準備・実施を進めていく。	
	③全教育活動を通じて児童の道徳性を養うとともに、いじめの撲滅のため、いじめ対策委員会を随時開催し、未然防止と解決に努める。また、調布警察署や調布警察スクールサポーターと連携し情報収集を行い、問題行動の未然防止の取組を行う。	B			③学校ホームページは毎日更新することで、リアルタイムに教育活動の様子を伝えていくようにする。また、地域・保護者には学校ホームページの閲覧について機会を捉えて呼びかけていくとともに、必要な情報等についての意見交換をしながら内容の充実を図る。	A
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
	①学校評価アンケートでは、保護者 A+B 回答「安全指導」：90%、「生活環境」：85%であった。また、児童 A+B 回答「規範意識」96%、「健康・安全」：94%となった。職員が共通認識をもち、安全・安心な学校生活を送れるよう安全指導を徹底りながら、調布警察署と連携した不審者侵入対応研修会や対応訓練の実施や校舎内照明 LED 化カーブミラーの増設、校庭芝生や樹木の維持管理等、安全性を高めるための施設改善を図ってきた。引き続き、児童の安心・安全を最優先に考えながら教育活動を進めていく。校舎内外の清掃や整備については継続的に行っているが、施設老朽化に伴う汚れや砂ぼこりの侵入等もあり、十分に行き届いているとは言えない現状もある。結果を真摯に受け止め、生活環境のさらなる改善が児童の健康増進や学校生活上の安全安心につながるよう改善を図っていく。	B	①校内委員会を月 1 回開催し、特別支援教育コーディネーターが中心となって外部機関と関係した支援の在り方や改善策について検討することで、方針を共有しながら指導・支援することにつながった。巡回心理士、SC、モデル校として配置された SSW とは巡回及び勤務日毎に情報共有や指導や支援のために有用となるフィードバックを受け、指導・支援に生かせるよう努めてきた。	B	①学校評価アンケート保護者 A+B 回答では、「地域連携」：84%（前年度 82%、前々年度 76%）、「学校公開」92%であった。新型コロナ五類移行を受け、地域関係団体の皆様のお力添えによる地域関連行事や学校行事・授業参観の実施により来校機会を増やすことができたことによるものと考ええる。次年度より導入されるコミュニティスクール制度を有効に活用しながら、今後とも「地域・保護者とともに子どもを育てる」ために、保護者・地域関係の皆様とは「Team 二小」の一員としてさらなる連携を図っていききたい。	B
	②学校評価アンケート「学校生活が楽しい」では、保護者・児童 A+B 回答ともに 95%であった。全教育活動を通じて児童の道徳性を養うとともに、年間 3 回のアンケートの実施やいじめ対策委員会を適時性をもって開催することで、未然防止・早期解決に努めてきた。今後も、危機意識を高めて児童の状況把握に努めるとともに、必要に応じて調布警察署や調布警察スクールサポーターと連携し情報収集を行い、問題行動の未然防止の取組を続けていく。	B	②週 2 回の職員打ち合わせを活用し、全教職員が情報共有を行い、特別に支援が必要な児童に対する理解を深めるとともに、よりよい支援の在り方について全職員が共通認識をもち支援にあたることができるようにしてきた。多様化する課題により適切に対応できるよう特別支援教育にかかわる専門性の向上のための研修機会等の確保が引き続きの課題である。	B	②学校評価アンケート「情報発信」については保護者 A+B 回答：92%であった。今年度もできる限り学校ホームページの更新を増やし、「学校生活の様子」について配信することで本校の教育活動を理解していただくためのツールとして活用してきた。次年度は連絡メールツールとして「すぐーる」へ移行することから、迅速な情報提供に生かせるよう活用方法を工夫していきたい。	A
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 校庭の「あるコンクリート」の定着に驚いた。中休み後、走って教室へ戻る児童がいなかった。校内にもカーブミラーを設置するなど、子どもたちのためにできる安全対策を、先手を打って考え、事故を防止していると感じる。 常に、「ヒヤリ」「ハット」の事例について、全教職員で教諭するように努め、それについての防止策を考えていくことで、大事故が防げるものと考えている。 施設設備の老朽化による危険箇所を早急に改善していただきたいと願う。 		<ul style="list-style-type: none"> 担任だけでなく、全職員で情報を共有し、連携をとることでより細やかな関わりにつながるものと考えている。 		<ul style="list-style-type: none"> 夏祭りでは大勢の来場者で賑わい子供たちや地域の方々楽しんでいただけたと感じている。今後も地域関連行事への積極的な参加を促すことで、地域の活動を広く知っていただき、子供たちにとって思い出深い行事が継続できるよう取り組みを進めていただきたいと願う。 写真の使用など、情報の公開については個人情報保護の観点から、いろいろと制限の中で、様子も伝えにくいと思う。場合によっては、保護者に写真の使用について了承を得ても良いのではないかと。 	

人材育成・組織運営	
自己評価	<p>○「Team 二小」～one for all, all for one～ 教職員がそれぞれにもつ「よさ」や「強み」を生かしてそれぞれの役割を果たし、共通理解を図りながら、「子どもたちの未来に触れている責任と誇り～二小 PRIDE～」を胸に、「Team 二小」としてベクトルを合わせ、全教職員一丸となり教育活動を進めてきた。</p> <p>○主幹教諭・主任教諭を中心に日常的・意図的な OJT をそれぞれ推進しながら、職員相互に研鑽を図ってきた。主任教諭には、学校運営にかかわる明確な役割を示すことで組織貢献意欲を高めることにつながった。</p> <p>○若手教員には教育実習担当や分掌主任等、経験年数や強みに応じた役割を与えたり、新規採用教員への指導・助言の機会を設定したりすることで、組織貢献意欲や人材育成に対する意識の向上につなげられるよう努めた。</p>

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場において、教職員の連携をチームワークは教育の質を高める上で欠かせない条件の一つであると考え。経験年数に関わらず、互いに認め合い、一人一人の良さを十分に発揮できる職場環境をみんなで作っていかれることを願っている。 ・先生方におかれましては、日夜子供たちのために研鑽を図られ、ご指導いただき心から感謝申し上げます。今後も質の高い指導を継続いただけますよう、労働環境を整えていただき、お身体を大切になさって下さい。
---------	--

中期的な経営目標の達成状況

- ① **主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善と自ら学びに向かう児童の育成**⇒子供が中心となる・子どもたち同士が学び合う授業づくり（対話的な学び・協働的な学び）を推進するために、言語活動の充実や ICT 機器の効果的な活用をさらに図り、児童が主体的に学び合いながら、楽しく、よくわかる授業となるよう、授業改善に向けて一層の研鑽を深めていく必要がある。
- ② **自己肯定感をもち、粘り強く取組む児童の育成**⇒子どもたち一人ひとりが明確な目標をもち、努力を積み重ねるプロセスを大切にしながら達成感を味わい、子どもたちが行事を通して成長することができるよう、引き続き指導の工夫をしていく。
- ③ **多様な価値観を認め合える児童の育成**⇒本校の特色ある教育活動の一つである異学年交流「たてわり班活動」は、豊かな心を育てる取組として児童の姿にもその成果が表れている。今後も大切にしながら一層の充実を図りたい。
- ④ **自ら健康な生活を送ることができる児童の育成**⇒校内研究（体育科）による取組等から、児童が運動の特性に触れる楽しさや喜びを味わう授業づくりにつながり、その成果が表れてきている。一方で、体力調査結果からも本校児童の体力の現状には課題がある。今後も、本校の特色である校庭芝生を有効に生かしたり、地域・保護者とも連携を図ったりしながら、児童が主体的に運動に取り組むように工夫していくことで、運動に親しむ意欲の向上や運動の日常化につなげていく。
- ⑤ **安全・安心な学校づくりの推進**⇒職員が共通認識をもち、日々の生活では安心して学校生活を送れるよう安全指導を徹底するとともに、安全性を高めるための環境・施設改善を進めてきた。引き続き、児童の安心・安全を最優先に考えながら教育活動を進めていく。
- ⑥ **児童一人ひとりに応じたよりよい指導・支援のための特別支援教育の推進**⇒多様化する課題により適切に組織対応できるように校内委員会を基軸とした組織的体制を整えていくとともに、研鑽の機会を設定していく。
- ⑦ **地域の教育材・教育力を生かした教育活動の充実と地域連携の推進**⇒学校経営方針に示す「学校、保護者・地域住民などが相互に連携、協力しながら、教育活動を推進していく」に沿い、学校生活アンケートをはじめとする各種アンケート結果や各行事等・授業公開での感想等を通して、地域・保護者、そして子どもたちの思いや願いを受け止めるとともに、次年度から導入されるコミュニティスクール制度を活用しながら、地域・保護者との連携を深め、共に二小の子どもたちを育てていきたい。

次年度の重点課題

- ◇「豊かな心」を育むための全教育活動を通じた「自他尊重の精神の涵養」の一層の推進
- ◇異学年交流「たてわり班活動」の一層の充実と「あいさつの励行」の推進
- ◇校内研究と関連付けた主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善と主体的・協働的に学び合う児童の育成
- ◇児童が主体的に運動に親しむための体育授業等の充実と運動の日常化の推進
- ◇安全・安心な学校づくりの推進の継続
- ◇個に応じた指導・支援の充実の継続
- ◇次年度に控える開校 80 周年に向けた、児童の愛校心や郷土愛の一層の醸成と地域・保護者と連携した円滑な計画・準備の進行
- ◇コミュニティスクール制度の円滑導入と地域・保護者との一層の連携の推進